

242) 永遠の愛を求めた

発車のベルが吹雪と混じり 列車のドアがゆっくり締まる
曇ったガラス手でこすったら 街の景色が走り始めた
喜びも苦しみも この街に^{ほうむ}葬って
モノトーンにぼんやりと 過ぎし日がよみがえる

あなたとともに夢追いかけて 涙を捨てて生きてきたけど
血が^{にじ}滲むほど心きしんで 追われるように街を出てゆく
過ぎし日の絶望も 今はもう夢の中
雪景色まっ白に 哀しみを包んでく

あなたの心戻って来たら この北国でもう一度だけ
やり直そうと想ってたけど もうこれ以上待てなかったの
ゆきずりの愛じゃない ^{たわむ}戯れの恋じゃない
妥協など許さない 永遠を求めたの

^{とき}時空の彼方に捨てた思い出 集めてみても恋は還らず
冬はめぐりて春が来て でも腕組んで歩くことない
ひとときを愛し合い 真実を求め合い
別々の道を行く 運命が待ってたの